

下森議員（自民議連）

平成 29 年 9 月 21 日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問） 県北地域における併設型中高一貫教育校の設置について

平成 31 年度から三次に誕生する新たな併設型中高一貫教育校についても、名前だけでなく、県立広島中・高等学校のように、実質の伴った中身のある高度な教育の内容としてほしいと考えるが、今後の取組方針について、教育長の所見を伺う。

（答）

併設型中高一貫教育校の設置につきましては、平成 26 年 2 月に策定をいたしました「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」や、平成 26 年 12 月に策定をいたしました「広島版『学びの変革』アクション・プラン」におきまして、

- ・ 広島中・高等学校における、6 年間を見通した教育の成果を広げていくことや、
- ・ 地域における「学びの変革」を推進し、県内全体の教育水準の向上につなげること

など、その方向性を示しているところでございます。

平成 31 年 4 月に開校いたします三次中・高等学校におきましても、広島中・高等学校において実施しております、中学校と高等学校の教員によるティームティーチングや相互乗り入れ授業を実施することなど、広島中・高等学校での成果のある取組を十分に生かすことにより、中高一貫教育校の特色を生かした教育を、教職員が一丸となって進め、グローバル化が進展する社会の中にあって、幅広く活躍できる人材の育成を図ることとしております。

この学校につきましては、長い歴史を有する三次高等学校内に中学校を新たに設置し、併設型中高一貫教育校とすることから、これまで三次高等学校が培ってきた伝統や文化を継承しつつ、県北地域における「学びの変革」のリーディングスクールとして、中・高 6 年間の一貫した教育活動を推進し、その成果を近隣の中学校や高等学校にも広げることによりまして、県北地域全体の教育水準の向上につなげてまいりたいと考えております。